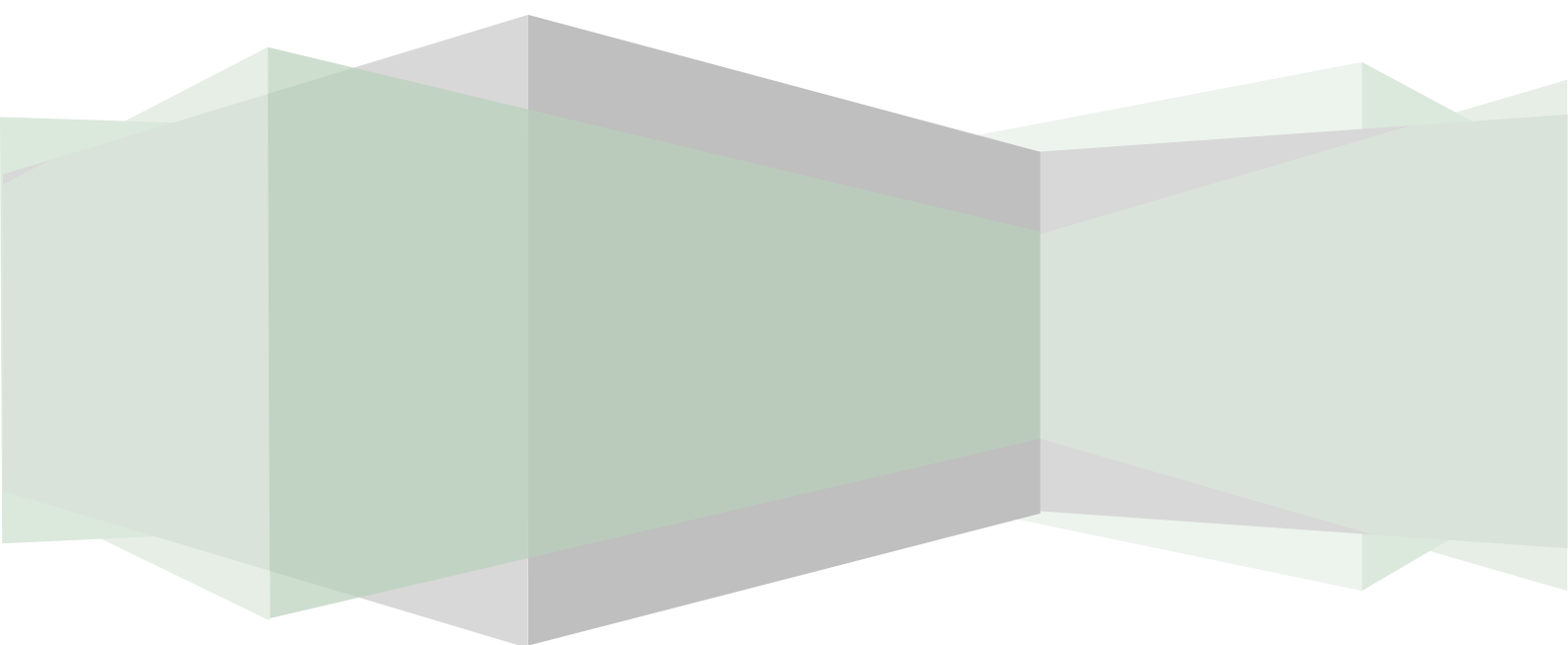


大分市 市民部 市民協働推進課

# 協働のまちづくり大賞 事例集

令和元年度



## 目 次

- 協働のまちづくり大賞について・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1

### **令和元年度 受賞事例**

#### **【協働のまちづくり大賞】**

- 《二目川自治会》  
地域の伝統行事や自治会行事を通じての地域づくり・・・・・・・・・・P 2

#### **【審査員特別賞】**

- 《緑が丘連合自治会》  
「Be 助っ人緑が丘」（緑が丘版ファミリーサポート）による住民の生活支援・P 5

#### **【優秀賞】**

- 《顕徳町町内会》  
三世代交流広場で生まれ変わる町内会・・・・・・・・・・P 8
- 《椿が丘自治会》  
三世代交流による自治会の活性化・・・・・・・・・・P 1 1

#### **【奨励賞】**

- 《大分を桜でいっぱいにする会》  
柞原八幡宮桜の並木バトンプロジェクト・・・・・・・・・・P 1 4
- 《尾田自治会》  
日本一きれいな児童公園・・・・・・・・・・P 1 6

## 協働のまちづくり大賞について

協働のまちづくり大賞は、自治会やその活動を支援する市民活動団体等が行っている住みよいまちづくりのための活動事例を募集・表彰する制度です。令和元年度は、6団体から応募していただきました。

応募のあった全ての事例をまとめた本事例集を、自治会に配布するとともに、大分市のホームページに掲載します。まちづくりの参考にさせていただきだけでなく、今まで自治会がどのような活動をしているか知らなかった人にも目を通していただき、関心をもつきっかけになればと思っております。

### ～テーマ別一覧～

#### 【世代間交流】

- ◆ 顕徳町町内会 ..... (大分中央地区 金池校区) ..... P 8
- ◆ 大分を桜でいっぱいにする会 ..... (大分西部地区 八幡校区) ..... P 1 4
- ◆ 椿が丘自治会 ..... (植田地区 宗方校区) ..... P 1 1

#### 【コミュニティの活性化】

- ◆ 二目川自治会 ..... (鶴崎地区 明治校区) ..... P 2

#### 【地域福祉向上】

- ◆ 緑が丘連自治会 ..... (植田地区 横瀬校区) ..... P 5

#### 【日本一きれいなまちづくり】

- ◆ 尾田自治会 ..... (坂ノ市地区 坂ノ市校区) ..... P 1 6

# 協働のまちづくり大賞

## テーマ：コミュニティの活性化

### 地域の伝統行事や自治会行事を 通じての地域づくり

(鶴崎地区 明治校区)

#### 二目川自治会

##### 地域の課題、活動をはじめたきっかけ

二目川自治会は、古くから稲作を中心とした地域であったが、近年、就労構造の変化や少子高齢社会の進展、農業従事者の高齢化に伴い、この20年で多くの農地がアパート等へと変わり、特にここ数年は急激な宅地開発が進んでいる。このような中、従来からの住民と新しい住民との構成比が逆転しており、自治会活動やこれまでの伝統行事をどのように伝承し、自治会内の繋がりをどのように構築していくのか、自治会活動の活性化や伝統行事を継承していく人材の確保をどのようにするのか課題となっている。

全34班のうち、旧来からの班は9班、10班は新旧混合班で、15班は宅地開発に伴う新しい班。また、賃貸アパートが71棟あり、世帯数の新旧比率は、約1,766世帯中、旧は150世帯、新が約1,616世帯で、1対11の割合となっている。

##### 取り組み内容

平成元年頃から神輿担ぎやふれあいフェスタなどの行事を通じて、コミュニティの活性化に取り組んでいる。

急激な宅地開発に伴う世帯数の増加により、元からの自治会員より圧倒的に新しい自治会員が多くなる中、地域の特性や自治会活動を新しい自治会員に班長会や自治会だより（毎月1日発行、全戸配布）などを通して伝え、会員相互の交流や伝統行事への参加を呼びかけた。

当自治会では、自治会活動はもとより、地元の伝統行事の開催等についても

主催者と連携・協力しながら取り組んでおり、「水分神社の春季大祭」の神輿担ぎ、山車の綱曳きを班長や子ども会、関係団体、ボランティア団体に協力要請している。

また、松明に火を灯し地区内を一周する虫駆除と豊作を祈願する「虫送り」、趣味の発表会や小学生の合唱、班対抗競技、ビンゴゲームなど、多様なプログラムを通して地元住民のふれあいと交流を図る「二目川ふれあいフェスタ」、自主防災会との共催で「防災訓練」などを行っており、自治会活動への理解と協力については班長会や子ども会、月一回発行の「自治会だより」などで、その都度お知らせし、参加を呼びかけている。

さらに、「二目川と言えば百手まつり、百手まつりと言えば二目川」と言われるほど、地域の代表的な伝統行事である「二目川百手まつり」(※1)についても、毎年、1月20日開催に向けて百手まつり保存会と共催で取り組んでいる。当日は、地域の子どもたちも百手まつりを観覧し、伝統行事について学んでいる。

元々、伝統行事や自治会行事が盛んであり、長年受け継がれてきている行事への取り組みや参加呼び掛けの為、自治会組織として班長会とは別に体育部会(※2)を設置したり、自治会内の各種団体との交流会(※3)を開催して、各種行事への参加呼び掛けや世代間の交流、コミュニティの醸成について意見交換の場を設定した。

また、開催のお知らせや開催した行事の報告を自治会だよりなどで行うとともに、タウン情報誌にも開催した行事の記事を掲載してもらうことで、自治会行事や伝統行事に興味を持ってもらうようにしている。

※1 百手まつり：室町時代を起源とし、五穀豊穡や無病息災を祈願する伝統的な民俗行事です。二目川地区内の約50戸が毎年順番に、頭人(とうじん)と呼ばれる祭主を務め、ご神体の掛け軸を保管し、まつりの会場を提供します。神事と二目川神楽の奉納が終わると、祭主と来年以降の頭人である頭前(とうまえ)が、約3m離れた二つの的に次々と矢を放ち、的射の結果で、その年の吉凶を占います。的の中心に矢が当たると縁起が良いとの言い伝えがあり、矢が的中するたびに太鼓が打ち鳴らされます。

※2 体育部会：各班に体育委員を配置し、明治地区の各種体育行事やふれあいフェスタの準備、当日の運営、選手集めなどを班長と共働して対応する組織。

※3 交流会：各種団体・機関の代表者が一堂に会し、各々の活動内容や課題などを協議し、各団体・機関の相互理解と連携により活動の充実・発展を図るとともに、自治会活動のより一層の発展に資することを目的とする。

6月の交流会には、宮総代、老人会、婦人会、消防団、川友会、民生委員・児童委員、クリーン推進員、防災士、健康推進員、子ども会(A.B.C)、中学地区部(A.B)、体育部長、公民館主事、自治会三役が出席。会議の様子は自治会だよりで自治会員に報告。

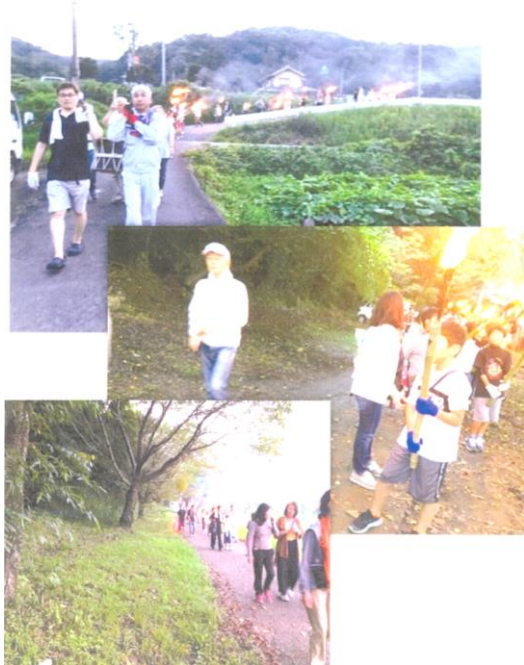
### 活動の成果・今後の展望

自治会活動や伝統行事を通じて相互に交流してもらい、地域に愛着を持ってもらう為に、班長会や自治会だより、タウン情報誌などを通して、情報発信を常に行い、新しい住民への周知をしっかりと行うことで、協力への理解が深まってきた。特に、これからの自治会活動は、多様性の時代を迎えており、時代に合った自治会活動や伝統行事のあり方を模索していく必要があり、次の世代に継承していく為の人材の確保・育成が喫緊の課題である。

消火器の訓練で消防士の説明を  
聞く参加者



炊出し訓練で非常食と豚汁の試  
食中



松明を持って田んぼや畑の周りを歩く各班  
長さん、小学生、中学生、保護者たち

## 審査員特別賞

### テーマ：地域福祉向上

# 「Be助っ人 緑が丘」（緑が丘版ファミリーサポート）による住民の生活支援

（植田地区 横瀬校区）

## 緑が丘連合自治会

### 地域の課題、活動をはじめたきっかけ

緑が丘連合自治会は、緑が丘一、緑が丘二、緑が丘三の三つの自治会で構成されており、総戸数は約1,360戸、総人口は3,637人、うち70才以上は952人で70才以上の割合は約26.1%となっている。（令和元年9月末現在）

少子高齢化と人口減少が進む中、団地住民相互の親睦、ふれあいと絆づくりが必要であるため、団地まつり等を各自治会が行っているが、さらに日常生活に支障がある住民（主に高齢者）の生活支援を行い、住民の相互扶助による、安全安心で住み続けられる団地づくりが求められている。

平成29年度に大分市から「ふるさと団地の元気創造推進事業」の第2モデル団地の指定を受け、住民参加のワークショップを行ったところ、「相談できるところがほしい」「ボランティアがしたい」「お助け隊をつくりたい」等の具体的な取り組みが意見で挙がったのを基に子ども高齢者対策部会の活動として「緑が丘版ファミリーサポート」を立ち上げ、先進地域の取り組み等を参考に名称を「Be助っ人 緑が丘」とした。

平成31年1月に需要調査のため、全戸を対象にアンケートを実施した。（回収率64.8%）

- ①手伝ってもらいたい・利用したい 30.1%、今は利用希望がないが、あると助かる（多数の意見）
- ②サポーター希望者 52人であった。

## 取り組み内容

令和元年10月1日から試験運用開始。令和2年4月1日から本格運用開始予定。（具体的な検討は平成29年9月から）

### 《活動内容》

- ①話し相手、困りごとの相談
- ②安否確認
- ③ゴミ出し（住居からごみステーションまで）
- ④簡単な物の移動
- ⑤軽微な草取り（通行人へ影響等を与える部分のみ）
- ⑥買物代行（団地内と限定した近隣の店。利用者は車に同乗しない）
- ⑦布団干し
- ⑧部屋の軽微な清掃
- ⑨その他事務局が認める軽微な作業 等

活動内容は、介護保険等公的なサービスが受けられない隙間を埋める程度のもの。

利用料金は、15分未満100円、15分～30分未満200円、30分～60分未満500円。（アンケート結果を参考にした）

### 《活動状況》

10月からの試験運用開始に先立ち、サポーター（18人）の研修と利用希望者（20人）宅を戸別訪問し、利用内容等を再度確認した後、活動開始した。

・月別の活動状況

10月・・・活動回数	4回	
内訳	〔	〕
	ごみの搬出	2回
	不要家具の搬出	2回
利用者1人、サポーター4人		
11月・・・活動回数	16回	
内訳	〔	〕
	ごみの搬出	6回
	不要家具の搬出	2回
	買い物	8回
利用者3人、サポーター5人		
12月・・・活動回数	16回	
内訳	〔	〕
	ごみの搬出	6回
	不要家具の搬出	1回
	買い物	9回
利用者2人、サポーター5人		



## ・ 注意点

- ① 自治会が活動主体であり、住民が安心して利用できること。
- ② 活動において、住民間のトラブルが無いよう「サポーター活動マニュアル」を作成した。
- ③ 包括支援センターと連携して、利用できる公的サービスを優先している。
- ④ サポーターの活動は、身分証明書とベストを着用する。
- ⑤ 利用料金以外のお礼等は受け取らない。
- ⑥ 利用料金は、サポーターの収入とする。
- ⑦ 利用申し込み以外の活動はしない。無償活動をしない。
- ⑧ 個人情報等の守秘義務を厳守する。
- ⑨ 活動時間延長等の判断は、事務局が行う。(サポーターが行わない)
- ⑩ 利用者、サポーターに年齢制限を設けない。

高齢化が確実に進んでいる中、この活動を通じて、子ども・高齢者、利用者・サポーター等相互での「世代間で支え合う共生のまちづくり」を展開する。

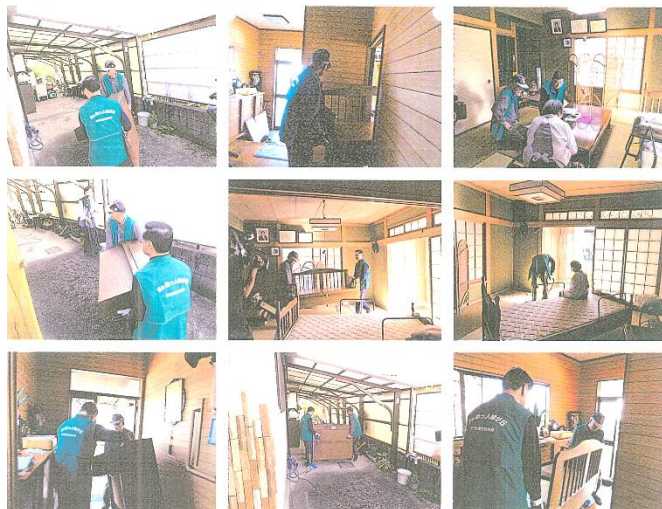
## 活動の成果・今後の展望

介護保険では認定を受けるまでに時間がかかるが、この活動で迅速に対応ができ、介護保険認定を受けるまでの間、利用者の支援が出来た。

複数回利用した独居の利用者は、サポーター等がかかわることにより、集いの場や体操教室に定期的に参加できるようになった。

テレビ、新聞で「Be助っ人 緑が丘」の活動が報道されたことで、大きな反響があり、さらに団地内の社会福祉法人や地域包括支援センターを訪問等して広報活動を実施してきた。本当に困っている住民に周知できていないのではないかとの不安感はあるが、反面、地域力があるのではとも思える。

今後、少子高齢化の現状で、この活動を充実していくことが必要である。



緑が丘団地元気創造推進事業 主体 緑が丘連合自治会

### Be助っ人 緑が丘

ビスケット

誰かちよっと助けてくれたら…

今日は1日寝にも会わなかったなあ…

介護保険ではできないと言われたわ…

日常生活のことなら私たちも何かできると思います 私たちも通る道ですから

「Be助っ人 緑が丘」とは何ですか  
年齢を重ねるにつれ、体力の衰えや健康状態の低下から、日常生活の中でこれまで可能であった些細なことが難しくなったり、不自由になることができて、生活の負担になっていると感じることはありませんか。  
日々の小さな困り事や心配を、迅速にお手伝いして「安心」の確保に変える優しいサポートそれが「Be助っ人(ビスケット) 緑が丘」です。

\* 援助活動  
・話し相手・困りごとの相談・ゴミ出し・簡単な物の移動・買い物代行・布団干し・軽微な掃除等その他事務局が認める軽微な作業

\* 利用料  
・年会費500円(令和2年4月より)15分未満100円から60分未満500円

問い合わせ先 那須 090-7446-2641 大塚

この事業は郊外型住宅団地の活性化を目的とした「大分ふるさと団地の元気創造推進事業」の一環です

## 優秀賞

### テーマ：世代間交流

# 三世代交流広場で生まれ変わる町内会

(大分中央地区 金池校区)

## 顕徳町町内会

### 地域の課題、活動をはじめたきっかけ

顕徳町では大友氏遺跡の発掘調査のために平成19年頃から土地収用が始まった。多くの住民が町内を去り、特に遺跡のあった3丁目では世帯数が386から139まで減少した。もともと3丁目は住宅が建ち並ぶご近所付き合いの盛んな地域であったため、住民の心にはぽっかりと大きな穴があいたようだった。

なんとか町内に賑わいを取り戻したいと、大友氏遺跡の土地を借りて三世代交流事業を始めた。

### 取り組み内容

- もちつき大会：昭和53年～（40年目）
  - 盆踊り：平成24年～（7年目）
  - グラウンドゴルフ：平成24年～（7年目）
  - 野菜づくり：平成26年～（5年目）
- （春）グラウンドゴルフ大会 参加者50名
- ・子ども、親、高齢者をチームにすることで世代間、隣近所の交流を図った。
- （夏）宗麟盆踊り大会 参加者117名
- ・大友氏遺跡にあやかり宗麟公の名を冠して開催
  - ・町内会報で「ぜひ浴衣でお越しください」と呼びかけ雰囲気づくり
  - ・「チキリンばやし」を賑やかに踊り、「鶴崎踊り」では熟練の踊り手を先頭に、子どもたちは真剣な眼差しで見よう見まねで踊った。

- ・お楽しみの「かき氷」や「ミニ花火大会」も好評で2時間を楽しく過ごした。  
(冬) もちつき大会 参加者140名
- ・町内伝統行事の会場を広場に移して実施
- ・前日から役員が下ごしらえ、父親たちは物資の運搬や杵つき、高齢者は火の番、婦人方はもちを丸めるなど各々役割分担しながら力を合わせて90キロのもちをついた。
- ・子どもたちも杵つきや熱いもちを丸める作業を体験
- ・ついた餅は子どもたちと一緒に町内の高齢者にお届けし喜ばれた。
- (通年) 野菜と花の苗づくり
- ・サツマイモ400本を農家の支援を頂き苗植え。他にもキャベツ、ニンニク、タマネギなど。秋には収穫祭を実施し、子どもや保護者はもちろん、県立盲学校の生徒も招待し、収穫作業を通して皆で楽しく交流を深めた。
- ・宗麟公のもと日本で初めて伝えられたという「南蛮カボチャ」の苗植え。秋には20個を収穫し南蛮 BVNGO 交流館にも展示した。
- ・市の育苗事業を活用しコスモス300本、マリーゴールド、キンセンカ、葉ボタンを種から育てた。苗は皆で国道に移植し、秋には町内を彩り住民で楽しんだ。

#### ●立ち退きを逆手に取った交流広場づくり

- ・住民減少で町内は落ち込んでいたが、せっかく空いた土地を利用しない手はないと機転を利かせ広場として有効活用した。
- ・以前から町内には住民が大勢集まるような広い場所がなかったため、本格的な遺跡整備が始まるまで遊休地となっていたこの土地は絶好のスペースだった。
- ・市に相談し、除草・整地など管理は自分たちで行うという条件で土地を借り、町内住民が交流する広場として整備した。
- ・見晴らしのよい場所のため、交流行事だけでなく普段からお年寄りが集まり子どもが駆け回る住民憩いの広場になった。
- 子育て世代との積極的な関わり
- ・老人会、婦人会、子ども会の代表者で構成し幅広い世代による町内会運営。

頭徳町



頭徳町3丁目・交流広場



- ・行事計画時には子育て世代の意見を取り入れながら子どもが楽しめるよう工夫した。
- ・元PTA役員など若い人材を登用し広報チラシ作成、同世代への行事呼びかけなどで協力してもらった。
- ・各行事が終わる度に反省会を開催し、酒食を共に労いの言葉をかけながら関係を深めた。

## 活動の成果・今後の展望

### ●新しい住民層の取り込み

近年、顕徳町ではマンション建設ラッシュにより若い子育て世帯を中心に人口が増加してきている。それに伴い行事の参加者も増えており、新しい住民層を地域に取り込んでいることを実感している。

人口の増加は地理的要因によるが、この機会を生かすことができたのは、これまでに交流行事や子育て世代との関わりを地道に続けてきたことが功を奏したと感じている。

### ●町内のシンボルとして定着した大友氏遺跡

立ち退きで始まった行政と地域住民の関係であったが、交流広場の取組を通して協働意識が高まり自ずと協力関係が築かれた。

平成30年に南蛮 BVNGO 交流館がオープンしてからは、互いの行事にお呼ばれしたり、住民が FUNAI ボランティアガイドとして協力するなど、顕徳町の一員としての仲間意識も高まった。

### ●次世代に繋ぐふるさとづくり

子どもの参加が増えたことで町内は明るさを取り戻した。

以前とは住民層が変わっているものの、行事の賑わいを見ると住民が地域を大切に思う気持ちは変わらず受け継がれているように感じられる。

これからも、交流の場をつくり、絆を深め、子どもを大切に、ふるさととして誇りの持てる町内会を目指していきたい。



# 優秀賞

## テーマ：世代間交流

### 三世代交流による自治会の活性化

(植田地区 宗方校区)

#### 椿が丘自治会

##### 地域の課題、活動をはじめたきっかけ

椿が丘は昭和 47 年の団地造成で近隣団地の中でも古く、住民 638 名のうち 70 才以上の高齢者が 246 名（内独居老人 23 名、緊急時要支援者 15 名）で住民全体の約 39%を占めている。（令和元年 12 月 1 日現在）

地域の活性化、防災に関する意識の低さ、近所との交際の希薄さが課題となっている。

また、子どもを含めた住民同士の交流を深めて、地域の子も達を守ることも喫緊の課題となっている。

本自治会の少子高齢化が進行していくなかで、多世代間交流が今後ますます必要になると考えたため活動をはじめた。

##### 取り組み内容

平成 18 年度から取り組みを行っている。（一部は平成 18 年度以前から）

##### ●主な活動

##### ①月一回の全員参加による団地内一斉清掃

清掃と同時に班の住民の安否確認を行っている。

##### ②交通安全指導

毎朝夕の登下校時に交通安全指導を行っている。

##### ③有志による年 3 回程度の東西公園の清掃

##### ④各種会議や行事に総戸数の 6 割の家庭が参加しており、自治会活動への意識が高い。

##### ●主な行事

##### ①「盆祭り」

高齢化で盆踊りが出来なくなったため、指導者が子ども達に盆灯籠を作成させることで達成感を味あわせ、初盆の意味や日本の昔からの風習を学ばせている。

②「ふれあい遠足」

三世代参加の遠足後、ゲームやグラウンドゴルフを通じて交流を図っている。

③「新春ふれあい餅つき大会」

三世代参加の餅つきを行い、協力する気持ちを持たせている。また見守り隊の方々に餅を配布し、「食」に対する感謝の気持ちを育んでいる。

④「文化祭」

公民館での作品展（子どもコーナー）、歌や踊り等の芸能、施設見学を隔年で三世代参加で行っている。

●防災訓練、防災会

今までの訓練を増強し、昨年より大学の専門家の講話を聞き、今年新築した公民館で、子どもの参加を促し防災訓練を行い、予想をはるかに上回る住民参加を得た。今後も毎年講師を招き、訓練することを確認した。また、防災会の活動で独居の方を中心に、要支援者を月に2回以上訪問して、近況を確認し、連絡体制も確立している。年1回ふれあい昼食会を開き、交流を図っているほか、災害時の避難経路を確認し、速やかに避難できる態勢を確認し、防災訓練を実施している。

●各種ボランティア活動

①年配者の家屋の庭木の選定等を要請により無償で行っている。

②朝夕の子ども見守り

③椿が丘ボランティアの会

- ・月1回、ボランティアの民生委員を中心に独居老人を対象としたふれあい昼食会を開催している。
- ・地域ボランティアの方を招き、認知症予防講座等も開催し、楽しみながら活動している。
- ・ボランティア（華の会）として10年以上活動し、存在が定着している。

●活発な公民館活動

卓球や太極拳、カラオケ等5つの愛好会があり、住民が日曜日を除き毎日使用している。

●サロン（健康体操クラブ）の実施

毎週サロンに多くの方が参加し、月1回外部の講師や整体、整骨院の先生を招聘し、楽しく健康維持のための活動を行っている。

●自治会、敬老会（平成クラブ）、子ども会が協力し、行事には、常に子どもの参加を促し、お年寄りから子どもまで三世代にわたって交流を図っている。

●今年、市の補助金・自治会積立金で、耐震設備の整った公民館を新築したが、建設の進捗状況を全戸広報することにより、住民全員で建設に係わっていることを周知できた。特に子ども達に将来の団地の様子を想像させ、折に触れ

見学させた。

- 高齢化が激しいため、班長会を開催する際は多くの出席を請い、班長会の重要性を徹底した。
- 本年は、役員の変更時期であったが多くの住民の意見を拝聴し、全ての行事の周知徹底が出来て、例年に無い多くの住民の参加があった。特に子どもの姿が目立った。
- 町内に専門的なボランティアの人材が多い。
- コミュニケーションが密に図られている。

### 活動の成果・今後の展望

本年は公民館新築があり、例年になく、自治会活動に関心を持つ住民が増加した。

回覧、全戸配布の資料を工夫し、ゴミ集積場の問題、小動物の排泄物問題も徐々にではあるが、改善の傾向が見られた。

役員全員が、その責務の重さを実感し、今後のビジョンを描き広報活動の重要性を痛感している。

これからも各種行事に子どもの参加を促し、少しでも住みよく居住したいと思えるような地域にしたいと努力していきたい。



ふれあい遠足の様子 防災士さんを先頭に・・・



子どもたちも元気いっぱい



豪華賞品をゲット!! 秋晴れの日でした。



ホールインワンを目指して 参加者の多くが参加。

# 奨励賞

## テーマ：世代間交流

### 柞原八幡宮桜の並木バトンプロジェクト

(大分西部地区 八幡校区)

#### 大分を桜でいっぱいにする会

##### 地域の課題、活動をはじめたきっかけ

今から60年ほど前に旧八幡地区婦人会の方々が柞原八幡宮の参道に植樹をした桜並木は、毎年満開の美しい花を咲かせ、地域の隠れた名所として親しまれ、地元や神社の参拝者などの目を楽しませてきました。

しかし、近年は桜(ソメイヨシノ)の寿命も近づき、てんぐ巢病がはびこり、その内の数本は枯れ、生きている木の傷みも進行し、絶えつつあるのが現状である。

また、豊後一宮柞原八幡宮の麓でありながら、地域の高齢化により手入れができておらず、魅力のある通り(街道)でありながら、歴史的価値が薄れてきている。

##### 取り組み内容

平成30年7月から取り組みを始めた。

かつて華やいでいた参道の桜並木を次世代にバトンで渡したく、桜の植樹を行っている。将来的には、県道696号沿いを桜並木にしたいと考えているが、道路の拡幅工事などが見込まれているため、柞原八幡宮麓にある広大な私有地に桜100本を地域の子ども、自治会、賛同者などによって植樹した(平成31年2月)。春には桜、また秋にはアサギマダラが寄ってくる森にしようとフジバカマを植栽した。来年(令和2年)2月末には、追加で100本桜(ソメイヨシノ他)を植樹する予定である。夏から秋にかけては、地拵えのため、草切り、竹林の伐採、肥料やりなど、地域の方とともに、里山を形成している。

##### ●工夫したこと

地域の自治会役員には、事前にビジョンを説明した。

大分県土木事務所には、道路の拡幅事業状況を伺い、将来的な工事予定を確認した。



<参加の呼びかけ>

- ・近所の方に、植樹式のご招待状を作成し送付した。
- ・八幡小学校のPTA会長さんに主旨をお伝えし、子ども達の参加を依頼した。
- ・参加した子ども達には、お菓子のおせたいをした。

<広報>

- ・マスコミ各社に記者発表を行った。

●課題

- ・維持管理の体制、継続、組織化

→賛同者の増加。自治体職員OBの参加。

### 活動の成果・今後の展望

地域住民協働による「地域デザインの構築」と「地域コミュニティの発展」  
美しい故郷を誇りに思い、まちに愛され、まちのシンボルとなる場をすることで地域を愛する意識が高まる。

<ビジョン>

- ・子ども達には地域の大人が先生となり、植樹を通じて、地域の歴史、自然の生態、世代間交流などが学べる場としたい。
- ・数年後には、桜の名所として花見ができる場として地域に開放したい。車・自転車で来訪された方の憩いのスペースづくりを実践したい。
- ・大分市の西部海岸地区の魅力創造の基本方針の「自然・歴史体験エリア」として、活性化する組織づくりの基盤を作っている。
- ・活動に対し、自発性・社会性・創造性等の育成活動。
- ・サービスマインド（思いやり・おもてなし・ホスピタリティ）の育成。
- ・生育環境の保全や創造に関する考え方を知る。



# 奨励賞

## テーマ：日本一きれいなまちづくり

### 日本一きれいな児童公園

(坂ノ市地区 坂ノ市校区)

#### 尾田自治会

##### 地域の課題、活動をはじめたきっかけ

尾田自治会の地域内にある「尾田公園」は老人会、「尾田西公園」は子ども会を中心に公園愛護会を結成し、公園の管理を行ってきた。しかしながら、子どもたちは部活や学習塾通いのため参加者が減少し、老人会は高齢化とともにパワー不足になり、次第に管理が不十分となって公園の荒廃が目につくようになった。

公園愛護会の廃止を検討するまでに追い込まれたため、自治会を中心に三世代が力を合わせ、“地域の公園は地域で守る”との意気込みで現在に至る。

##### 取り組み内容

平成25年より本格的に活動を開始した。

- 尾田川土手の草刈りを行うボランティアグループ「リバーフレンド尾田」の応援により、遊具やフェンス周りの丈の高い雑草を草刈機で処理する。
- 耕運機を改造した“草おこし機”で雑草を取る。鍬や鎌等での手作業が大幅に減少した。
- 登校前に公園に集まる小学生や、放課後に公園で遊ぶ子どもたちが“特製のトンボ”を引いて雑草の根付きを防止する。
- 早朝、公園で実施しているラジオ体操グループ「尾田さわやか体操クラブ」によるトンボ引きも効果をあげている。

##### 活動の成果・今後の展望

公民館に備え付けた“作業日誌”に、トンボ引きの記録を記入してもらい、ご褒美として終業式に合わせ、「図書券」や「ノート」を贈呈している。その結果として、子どもたちは公園を大切に使い、散らかさずに遊ぶようになった。

夏休みには、70～80名の子どもと保護者がラジオ体操に励み、最終日に

は打ち上げとして、ソーメン流しを行っている。その他、「供養踊り」、「グラウンドゴルフ」、「有価物回収事業」、「もちつき大会」等、公園を利用した三世代交流の楽しい事業を今後も継続していきたい。

登校前に“トンボ”がけ



放課後も公園に集まれば作業開始

ラジオ体操後の作業風景



耕運機を改造した“草おこし機”



手作業が大幅に減少しました

2種類の“特製トンボ”

集まった石はココに



石捨て場



全てのトンボに重石を付けました



歯(クギ)を付けたトンボもあります

令和元年度  
協働のまちづくり大賞市長表彰授与式



問合せ先

大分市 市民部 市民協働推進課

電話：097-537-7251